

【はじめに】

このコーナー「森林管理署長等語る！」は平成28年4月からのバックナンバーがずらりと並んでおり、歴代の磐城森林管理署長の先輩方も執筆しておられます。大きく変わらない管内の概要などは、過去の投稿や当署のホームページをご参照いただきたく存じますが、簡単に言うと、当署は福島県浜通り全域の国有林を所管しています。

私は令和7年4月に磐城森林管理署に着任しました。福島県いわき市四倉町にある署の庁舎の隣にある宿舎に入居し、窓を開けた途端、潮風と轟音。クロマツがびっしりと植えられた海岸堤防に視界は遮られています。四倉海岸が非常に近く、その日は晴れてはいても海は時化していたようで、波の音が響いていて驚きました。

気候は温暖ながら、夏の夜は関東地方ほど熱帯夜にはならないですし、冬は雪が滅多に降らず、過ごしやすく感じています。

【震災から15年】

さて、本稿を執筆している令和8（2026）年2月は、平成23（2011）年3月11日に発災した東日本大震災から間もなく15年が経過しようとしている時期です。東日本大震災以降も、わが国では平成28（2016）年4月の熊本地震や令和6（2024）年元日の能登半島など各地で大きな地震に見舞われ、犠牲になった方や被災者もおられますが、東日本大震災が他の地震災害と異なるのは、大きな揺れは勿論のこと、津波による人的・物的被害が広範囲に及んだことと、その揺れと津波によって福島第一原子力発電所が電源を喪失し原子炉の冷却機能が失われ、炉心溶融等によって放射性物質が生活環境・自然環境に飛散してしまったことの二点です。とりわけ後者に関しては、多くの住民が被ばくを防ぐための避難を強いられ、未だにふるさとに帰ることができない方も多くおられます。本稿では、この二点に関して、森林、特に国有林の復旧・復興に向けた最新の取組状況をご紹介します。

【海岸防災林の復旧】

まず、津波による被害について。当署管内では相馬市松川浦地区をはじめ、海岸防災林が甚大な被害を受けました。

松川浦地区の国有林は、松川浦と太平洋を隔てる砂州上に位置し、南北約4km、面積は約60haあります。海岸に沿った松林が美しく、日本百景に数えられる景勝地でした。

しかし、東日本大震災の際に9.3mの津波が押し寄せ、松林のほとんどが流出するという壊滅的被害を受けてしまいました。

この復旧・再生のため護岸工、盛土工、植栽工を実施。令和3年度末をもって、復旧事業を完了しました。盛土をしたのは、植える木の根を深く張らせるためです。

その後は、植栽木の成長を阻害するつる類の除去を行うとともに、樹高が3m以上に達した箇所については本数調整伐を実施するなど、保育を進めています。

なお、当署管内の他地区を含め、東日本大震災の津波で被災した海岸防災林は各地で復旧工事が進み、クロマツを主とした植栽木がすくすくと育っています。



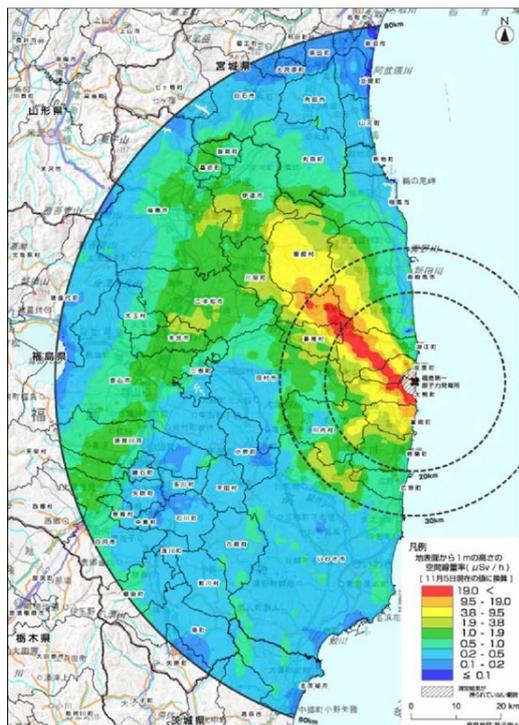
本数調整伐実施状況



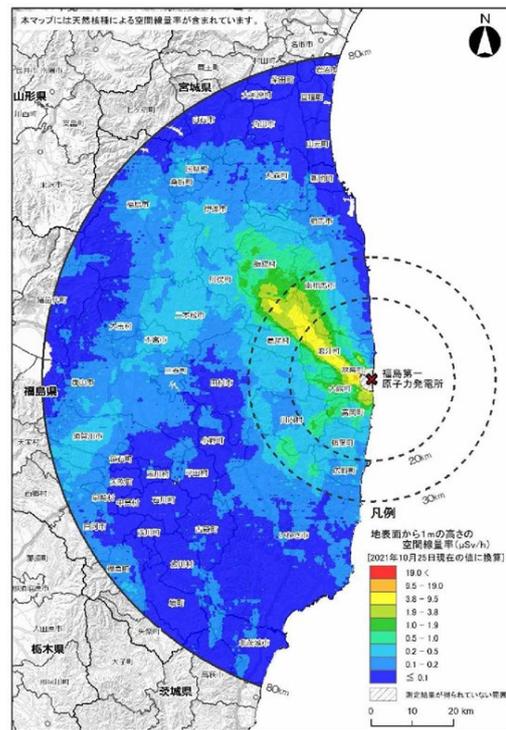
松川浦地区海岸防災林遠景

【原発事故の影響】

そして、原発事故。放射性物質は風に乗って山林にも降り注ぎました。下の図は放射線量の分布で、発災年と10年後の比較です。色合いは同じスケールですので、放射線量が下がっていることが見て取れると思います。青・水色までが0.5μSV/h以下です。



平成23(2011)年10月時点



令和3(2021)年11月時点

復興庁資料より

一方、依然として黄色や黄緑色の比較的高い放射線量を示す地域も残っており、こうした区域が立ち入りが厳しく制限される「帰還困難区域」に指定されています。

なお、原発事故当時樹木の枝葉や幹などに付着した放射性物質の多くは林内で土中に移動し、粘土層に固定化していることが研究結果で明らかになっています。

このように放射線量が低下した国有林内（具体的には、福島県が民有林において

伐採・搬出しても出てくる木材（特に樹皮）の放射線量に問題がないよう指針で示した、空間線量が $0.5\mu\text{SV/h}$ 以下の箇所）から順次森林整備を再開してきましたが、帰還困難区域に指定されている区域がある市町村から、当該区域やその周辺の放射線量が高い区域においても林業生産活動の再開に向けて、国有林が主導して実績を作ってほしいとの要望が寄せられています。

こうした要望も踏まえ、令和7（2025）年度、南相馬市冬住地区において空間線量 $1.0\mu\text{SV/h}$ 程度の林内の除伐（伐採木は搬出せず林内に存置）と土壌流出を防ぐ丸太筋工を実施しました（実施区域約11ha）。

さらに、帰還困難区域内の林道も長年立ち入りが制限され放置せざるを得ませんでしたが、葛尾村にある1路線、柏原林道の改良工事を実施しました（路盤工500mほか）。



除伐（2類）を実施した林内（冬住地区）



柏原林道改良工事（帰還困難区域内）

また、浪江町滝平地区においては、帰還困難区域内の国有林の沢から土砂が流出したため、同町からの要望を踏まえ、堰堤を設ける治山工事を進めています。



滝平地区治山工事施工状況（帰還困難区域内）

なお、こうした放射線量が高い可能性がある国有林内の事業実施にあたっては、事前に空間線量や土壌の放射性物質濃度の調査を実施しており、土壌に $10,000\text{Bq/kg}$ 以上の場所がある場合は除染作業と同様の特定汚染土壌等取扱業務とし、現地で活動する請負事業体の作業員の被ばく管理など、安全対策を講じています。

帰還困難区域を中心に、放射線量が高い国有林においては、森林放射性物質汚染対策センターの事業によって将来の森林施業を見据えた実証事業がごく限られた区域で行われた以外、原発事故から10年以上手つかずでしたが、令和7年度におい

て、それを打破する動きを始めることができましたと言えます。

令和8年度以降も、伐採木の搬出・有効利用を含め、従来対象としてこなかった放射線量が比較的高い国有林内の森林整備やその基盤となる林道の整備、山地災害を防ぐ治山工事など、地元要望も踏まえつつ取り組んでいく所存です。

【余談】

前任者から、浜通りにはデカ盛り文化があると引継ぎがありました。現場へ出向く機会などにしっかりその文化を味わっておりますので一部をご紹介します。

葛尾村には、日本テレビ系列の某グルメ番組でも取り上げられた食堂があり、普通盛りでも3合はあろうかというチャーハンが名物となっています。カレーの大盛りは器が深く、ご飯もルーも多量です。持ち帰り用のパックが無料でもらえます。日曜日が定休日ですので注意して下さい。



チャーハン（普通）



カツカレー（大盛り）

（いずれも筆者撮影・喫食。ただし一部持ち帰り）

また、いわき市田人地区、ここは山あいの奥地なのですが、器が巨大なソースかつ丼が名物となっているお食事処があります。カレーうどんの麺は平打ちで、(小) ライスも付くのでこれもボリュームたっぷりです。



ソースかつ丼



カツカレーうどん（ライス付き）

（いずれも筆者撮影・喫食）

このような「茶色い食べ物」だけでなく、「常磐もの」と称される美味しい海産物も豊富です。復旧・復興が進む浜通り地域にぜひお越しください。